ゆうらいふ通信

2023年1月 発行

トピックス

ゆうらいふの取り組みや、
各事業所の活動、介護の情報
など配信中です！

Find us on Facebook

- ●新年のごあいさつ／理事長エッセイ
- ●ゆうらいふトピックス
- ●新入職員紹介
- ●研修報告
- ●コラム「プロフェッショナル」 など

◆◇研修報告◇◆
ゆうらいふ理事による研修

【第3回】 10月25日（火）
テーマ：「介護・医療保険を中心とした公的保険の仕組み」
講　師：笠本 博之 氏（理事）

公的保険について、自分の持つ知識とのすり合わせができ、市民の方々に解りやすく説明ができるよう制度理解を一層深めていきたいと実感しました。今後介護保険の給付抑制による負担増・人員不足への対応が論点と教えて頂きました。課題を先読みして取り組んでいく必要性を実感しました。

【第4回】 11月21日（月）
テーマ：「行政（市役所）との関わり方」
講　師：石田 敬治 氏（監事）

医療・介護サービスは行政とのやり取りする機会が増えます。行政と係わるには『対等な気持ちで』『パートナーとして付き合う＝協働』事が必要であると教えて頂きました。また介護に関する情報だけでなく、政治・経済・世界情勢等広く知識を得ることで対等な話ができるよう自分自身を成長させないといけないことを実感しました。これからは同じステージで話ができ、顔見知りの関係を築けるよう目指していきます。

【第5回】 12月14日（水）
テーマ：「サラリーマン生活38年 今、思うこと」
講　師：中嶌 邦文 氏（理事）

「人間力を高める」という言葉が特に響きました。仕事をするのは人で、組織やツールがしてくれるものではない。人間力を高めることが重要とのことでした。また、「自分の給料は自分で稼ぐ！」の話では、実績をそのまま個人の売上として勘定し貢献度を数値化していくことができると考えました。今後の課題にしたいと思います。最後「明るく、元気に、前向きに」と締めくくられました。これを素直に実行することが、仕事もプライベートも豊かにすると感じたので、今日から実践します。

専門職によるコラムコーナー プロフェッショナル リレーコラム

Vol.18

介護福祉士 東（ひがし） 雄太（ゆうた）

介護の仕事を始めたのは、19歳の時でした。前の仕事では工場勤務で製造の仕事に携わっていたのですが、母親が介護の仕事をしており、祖母も認知症になったことで、自分も介護の仕事をしてみようと考えました。
工場勤務から介護の仕事に変わり、初めは自分に出来るかとても不安でしたが、一緒に働く職員さんや利用者さんに支えられ、気が付けばゆうらいふに勤めて9年になりました。
今は「利用者を笑顔に！心から笑っていただく」ことをモットーに、自分らしく頑張っていきたいと思っています。

趣味は学生時代から続けている野球です。また、最近はゴルフでスコア100切りを目指しています。

バトンを渡した人：稲葉遥さん（介護職員）　2022年10月号登場

新入職員のご紹介

●2022年10月以降に入職された方です

★保育所かりん
亀田 陽美さん（保育士）

ゆうらいふヘルパーステーション★
伊藤 友理さん（生活支援サポーター）

★ゆうらいふヘルパーステーション
石本 絵美さん（介護職）

リハビリサポートゆうらいふ★
グゥエン フォン ランさん（サポート職）

★保育所かりん
石田 佐代子さん（保育士）

ゆうらいふナースステーション★
小林 直美さん（事務職）

★リハビリサポートすいれん
浅田 真由美さん（看護師）

らいふステーション憩い★
今井 淳子さん（キッチン）

★らいふステーション憩い
小西 さつきさん（介護職）

よろしくお願いいたします！

特定非営利活動法人ゆうらいふ
事務局
守山市立田町1231-4
TEL：077-585-4070
【Web】http://www.youlife.ne.jp
【メール】info@youlife.ne.jp
お気軽にお電話ください

ゆうらいふ ●デイサービス ●総合事業 ●事務局
〒524-0214 守山市立田町1231-4 ☎077-585-4070

すいれん ●グループホーム ●デイサービス ●保育所
〒524-0001 守山市川田町1541-4 ☎077-584-2772

花　梨 ●小規模多機能型居宅介護事業所 ●グループホーム ●事業所内保育所（認可） ●ナースステーション ●ヘルパーステーション ●定期巡回・随時訪問型訪問介護看護
〒524-0214 守山市立田町4135-1 ☎077-599-0531

憩　い ●居宅支援事業所 ●小規模多機能型居宅介護事業所
〒524-0014 守山市石田町735-3 ☎077-584-2322

あけましておめでとうございます

常務理事
憩い事業部 部長
津田 征志

新年あけましておめでとうございます。
昨年は新型コロナによる休業等がありながらも、職員の日々の頑張りと利用者・ご家族の理解と協力により、安定したサービス提供に努めることができました。心より感謝申し上げます。

新年に当たり、NPO ゆうらいふの理念“住み慣れた我が家で最期の時まで共に考えます”を見える化し実践できる第４の拠点として『らいふステーション憩い』を 1 月に開設いたしました。相談窓口のケアマネ部門、小規模多機能サービスに加え、4 月には訪問看護・介護を併設します。医療・介護が一体化して、もの忘れが進んでも“住み慣れた我が家で最期の時♥”を過ごせるサービス提供ができるよう研鑽して参ります。市民の皆さまからの要望に添えるよう共に努力し知恵を重ねていきます。

日本の少子化・高齢化が同時に進行する中、守山市は転入者が増え人口が増加している地域です。但し高齢者の独居・高齢者世帯の増加は続いています。そのような環境下で、高齢者施設への入所費用に苦慮している方も増えています。ゆうらいふでは更なるサービスの質の向上に努め、人材確保、サービスの多様化・個別化、ICT を活用した DX（デジタルトランスフォーメーション）に職員一同切磋琢磨して取り組んで参ります。

何卒ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

エッセイ

理事長　山田 亘宏

忘れちゃったのよ

しゃれた和風レストランができたので、小学校同級生のハル子さんとミチルさんを呼んだ。ハル子さんが、タケノコ煮を食べながら「わたし、忘れちゃったわ」と言った。「なにを忘れたの？」と聞きかえした。「眼鏡？ハンカチ？鍵？マスク？バッグ？財布？」「それが、何を忘れたのか、忘れたのよ。３秒前に考えていたことなの」「じゃあ、そのままにしておけばいいのよ。わたしなんか、こないだ家を忘れたんだから」「落としたの？」「落とすわけないでしょ、家は持ち歩けないし」「自宅の場所を忘れたの？」「場所じゃないの、駅から家へ帰る道を忘れたのよ」「道はそこにあるものでしょう。目の前に。忘れようがない」「だから地図ですよ。裏道へ入って、地図を忘れたの。失礼ね」「地図は大学通りの書店へ行けば売っています」「頭のなかにある地図よ」「頭のなかに地図なんて入れたらめくれないわ」

まあまあ、とふたりの御婦人をなだめた。口論になると、おばちゃまはひかない。ぼけているのに口さきだけ達者で、ぼけ体験は高齢者の自慢合戦となり、聞かされるほうはたまったものではありません。人の名を忘れた。朝食がなんだったか忘れた。死んだ夫の名を忘れた。げんなりするが、ぼけたほうは話しをすると気がすむらしい。

食事が終わったとき、ハル子さんが「あ、思い出したわ」と言って廊下をトコトコ歩いてトイレへ行った。「トイレへ行くのを忘れてたの。これですっきりしたわ」とのことでした。

作家　嵐山 光三郎
「あすへの話題」2020.6.20
（一部省略しています）

今回は日経新聞より「もの忘れ」を題材にしたエッセイを掲載させて頂きました。もの忘れに気おくれせず、外に出て、美味しいものを食べて、おおらかにお喋りするのがいいですね。その行き先に「地域交流の広場」のある『らいふステーション憩い』をお選びください。お待ちしております。なお、「ぼけ」という言葉は原作のとおりといたしました。

ゆうらいふトピックス さまざまな価値観との遭遇

全職員で読書会を開催しています

推薦図書の中から、興味のある 1 冊を読み感想文を書く取り組みを行っています。書籍を通じて知識を習得し、業務に活かすことが目的です。自分では手に取らない本に出会えたり、お互いの感想を聞くことで理解を深め合ったりと、取り組みの手ごたえを感じています。（下野）

すいれん

●庭のみかんを収穫する様子を子ども達が眺める風景がとても微笑ましいです。●仲間と語らい、好きなことをして過ごす。そんな時間を大切に日々工夫して活動してまいります。（土田）

「アートで繋ぐ五人展」開催 田中伊久男氏

ゆうらいふ理事の田中伊久男さんが、守山・草津市の仲間とともに展示会を開催されます。工芸、水墨画、日本画、遊書など、5 人のアート作品が手を繋ぎ創る空間になるとのことで、楽しみにしています。
人と人との繋がりを大切に活動されている田中理事。その行動力にいつも刺激を受けています。今回の企画展にぜひ足を運び、アートや人との出会いを楽しみたいです。（杉若・上坂）

2023 年 2 月 8 日（水）～ 12 日（日）
午前 9 時～午後 5 時（入館は 4 時半まで）
※最終日は午後 1 時まで（入館は 12 時半まで）
守山市市民ホール 展示室

“さまざまな価値観との遭遇”

医療・介護サービスの現場では、利用者の方々と思いがけない価値観に遭遇します。“一日一日を生き・生ききる”特に生を終えた方々からの学びは大きく、教養・社会活動・暮らしぶり等…私自身の生き様を支えてくださっています。
職員が“人”としての成長に繋がることを願います。

写真で見る ゆうらいふ

花梨

●月桂樹、かりん、みかん、ユーカリなど植物を乾燥させ、アロマ足湯を楽しみました。●気候の良い日は外出を楽しみます。（今村・江川）

ゆうらいふ

●心と体を動かすことが何よりの機能訓練●自宅で自立（自律）した暮らしを継続できるよう、デイサービスではお一人お一人を支援してまいります。（岡田祐）